

INFINITY FORCE PRESENTS FOR ADULT



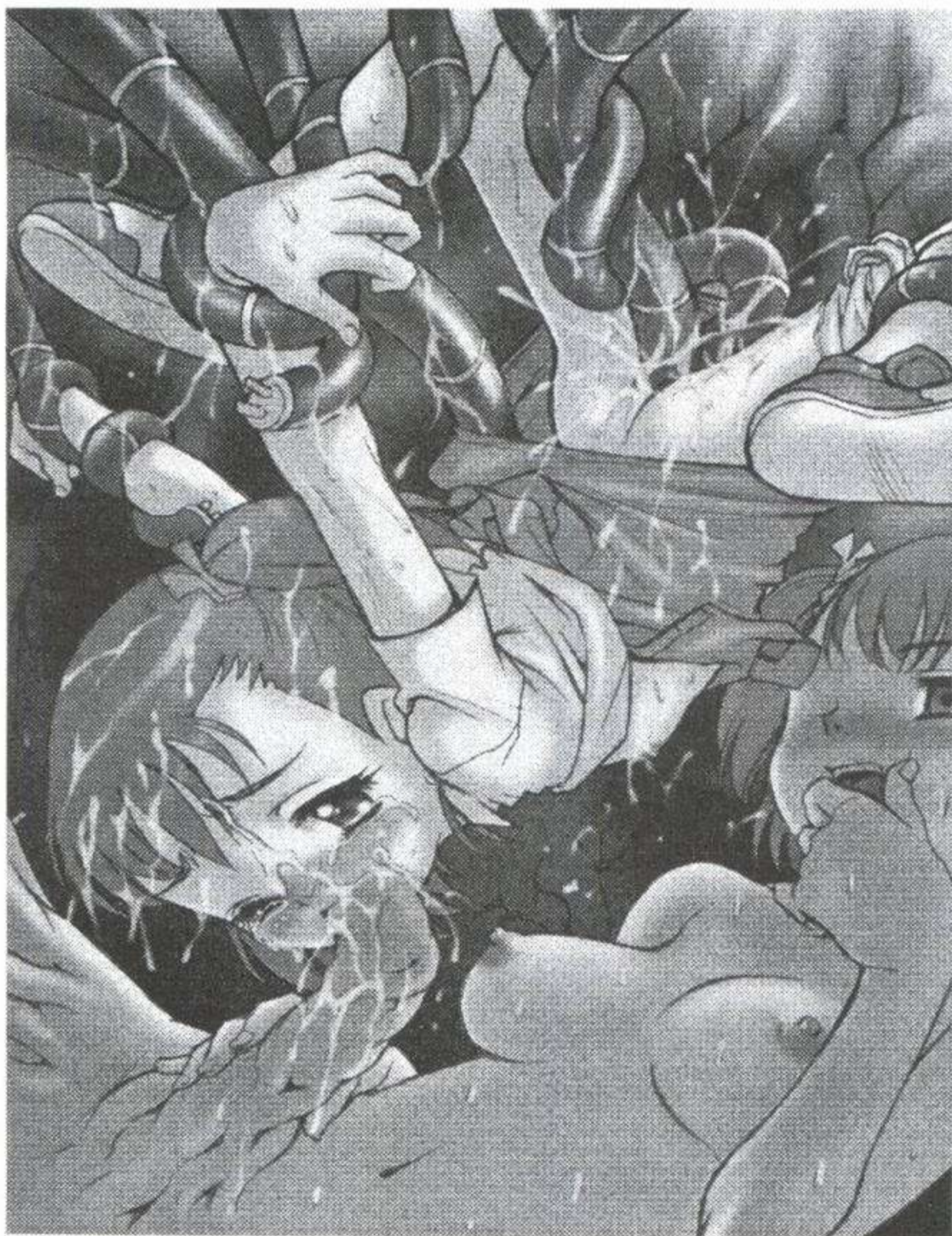
たまご魂

FRONTIER 04



デジ魂

04



- 5 . . . マーシーラビット
- 17 . . . 山下うり
- 29 . . . 悪の東丈
- 30 . . . まーしい CAT
- 37 . . . 雷覇 ZRX
- 41 . . . ぶるまほげろー
- 45 . . . 能登雅光
- 46 . . . 星逢ひろ
- 47 . . . POP. OFF
- 51 . . . 広川浩一郎
- 55 . . . 忠臣蔵之介
- 56 . . . キャプテンゴメス

- 62 . . . コメント



ちよつと
ママツ!

またこんな
私のキレイなパンツ
買ってきて...

でもルキちゃん
ママ買ったパンツなんて
こういう時じゃないと
履かないじゃない
たまにはいいでしょ?

DIGIMONTAMERS

脳内出張! 練馬お兄ちゃんズ!!

MERCYRABBIT 2002

カドらっ

どいつよ...
私が自分で買った
パンツばかり盗む
変態はア...

犯人は判ったわ!
ルキッ!!

デジノームが運んでたんだ
『練馬お兄ちゃんズ』って
連中がパンツ泥棒なのよっ

待ってなさいっ!
変態連中ツ!!
直接乗り込んで意見
してやるツ!!

西新の梅乃に
練馬お兄ちゃんズ



第28回
馬お兄ちゃん論

ルキたんが降臨したッ!!

俺達の信じる心が
ルキたんに通じたんだ
ッ——ッ!!

俺達の……
俺達の願いが
叶ったんだ……



私はアンタ達の信じる
心なんて知らない
知らないわよっ
私はアンタ達に意見
しにきたんだからっ……

なのに私を嬉しそうに壇上に
上げて……討論でもしたいの?
……って良く見たらその被ってる
パンツってば私の家から盗んだ
パンツじゃない!!

なっ……なによオ
アンタ達ナニ
喜んでるのよッ
!!



止めてって
言ってるでしょ
——ッ
!! この変態ッ



ちよつと……
私のパンツで
すーはーしないで
!!



ルキたんッ!!
僕も……
僕もぶってッ!!

ルキたん……
もつと……

ボキも
ボキもッ!

ほあほあ

もしかしたら
私って
触れては
いけない人達に
触れちゃった？？

ヤバイ・・・
この連中
なんかヤバイ
かも・・・！！

フフ・・・
リアルルキタンに会えて
興奮したお兄ちゃん達に
恐怖したかな？
無理もないよね・・・

ルキタン・・・
なにを怖がってるんだい？

練馬お兄ちゃんズ
リーダー
練馬長男（ながお）

きやああああ
ツ！？

え・・・？
なんで・・・
身体が動・・・けない？

おおっ!!
ルキさんの生ばんちゅー!!
なんと神々しい
姿なんだ!!

だ...だから
これは違うのよ...

あ...アンタ達が私の
パンツ盗んだから
コレ履くしかなかった
じゃないっつ...

しかも普段ハ絶対履く
事の無いママが買った
フリルのばんちゅー!!

普段着のクールなジーンズの
下はフリルの可愛いばんちゅ
!!
そのミスマッチもサイコー
だぜっ!!!

『ルキさんと仲良くなりたい』
...そんな我等の純粹な願いを
感じ取ったデジノーム達は
我等にルキさんのばんちゅを
与えてくれた...

そして
更に肥大化したルキさんへの
一途な想いは...我等により
ルキさんに近づく事の出来る
『コレ』を与えてくれたのだ...

やだっ...!!
やだっ...!!
私の裸をそんな
汚い視線で
見ないでったら...!!

そう...
人の想いを受けその願いを
『カタチ』つくる
夢のカード...

そっ...それは
ブルーカードッ!?
どうして...





フッフ
ルキたん・・・なんにも
怖がる事なんか
なんにも無いんだヨ

いやっ・・・
なにをするのよっ
なんのつもり?

いっ
いやっ

やっ・・・
やめてっ・・・
やめてよお

今日から
『我等』がルキたんの
ティマー・・・
ルキたんを可愛がって
あげられる唯一の

カード
スラッシュ

なっ・・・なによお
なんなのよう・・・
腰に力はいらない

アソコが・・・
なんで私のアソコが
こんなにもムズムズ
しちやうのよう・・・

びん

びん

が

おおっ！
ルキたんが・
我等のルキたん
が・

やあつ・
ウソ？
アソコが熱い

身体に引火した幼き
性欲の炎に戸惑い
身悶えしてるぞッ！！
そんな姿すらも愛おしい

クチュクチュ
しないと・
アソコがおかしく
なっちゃうよお

ああんっ！

いやあつ！
・
・
・
ああつ！
だつダメえ！！

5vvv

ひん

びん

びん

あ

びん

びん

びん

びん

びん

びん



やあつ……まだ……まだ……
熱いよう……まだ……
なんでえ……

お尻が……
お尻が熱くて切ないなんて
それじゃあ……私
変態だよう……

大丈夫ッ！
そんなお尻が利那くてタマラナイ
変態ツ子のルキたんでも
我等にとっては愛すべきパートナー
だからねっ！！

ちよつとっ!?!
……ああアッ!!
やあつ!……やア

びん
びん
びん

びん
びん



お願いっ！
やめっ・・・やめてっ！！
お尻なんか・・・お尻なんかで
エッチしないでよう・・・
だめえ・・・

ははっ！
なに言ってるんだい
ルキたんは恥ずかしがり屋
だなア
こんなにも我等のペニスを
すんなり迎え入れる
尻穴のクセにネっ！

お尻なんかで・・・
お尻なんかでエッチするなんて
アンタ達信じられないっ！
この・・・変態い・・・！！



ははっ
でもそんな意地っ張りな
ルキたんがたまらなく
可愛いんだけどねっ！



やあつ・・・
な・・・なんで

お尻で・・・イツたら
また前が切れないなんて
これじゃ・・・ホントに変態
じゃない・・・

やびっ♡

るーきちちゃんっ
!!!
可愛がってもらって
るかア?

あはっ♪
ルキちゃんったらお尻の穴
ハデに可愛がられたみたいよねえ
お兄ちゃん達のがこんなにも
入ってるなんて・・・

ジュリ?・・・
なんで?・・・
でも・・・でもいいや
ジュリ・・・私のアソコが
熱いの・・・利那いの・・・



くすつ☆

安心してっ
ルキちゃんの可愛いオマンコは
この加藤ジュリが『先輩』として
責任をもって気持ち良く
してあげるねっ!!

カード
スラッシュユ

ジュリ
ちゃん♪

みてみてえ♪
私の大きなこのオチンチンで
ルキちゃんの刹那さ
穴ごと埋めてあげるっ!!

あはは

あはは





ああんっ!!
スゴイっ! ジュリちゃんの
オチンチン...!!
すごいのおお!!!

ああんっ?

ずっ
ずっ



えへっ☆
だって...ジュリの
オチンチンとっても美味しい
んだもの!!
残さず食べなきゃねっ♪

あはっ♪
ルキちゃんのオマンコってば
私のオチンチンもこんな
に啜え込んで...
欲張り屋さんっ♪

うんっ...
利那さも埋って
キモチイッ!!

ぐっ
ぐっ

さあっ!!
我等「練馬お兄ちゃんズ」の愛しい
パートナー達に歓迎フィニッシュを
キメてあげるんだっ!!
うおおおおおおおっ!!



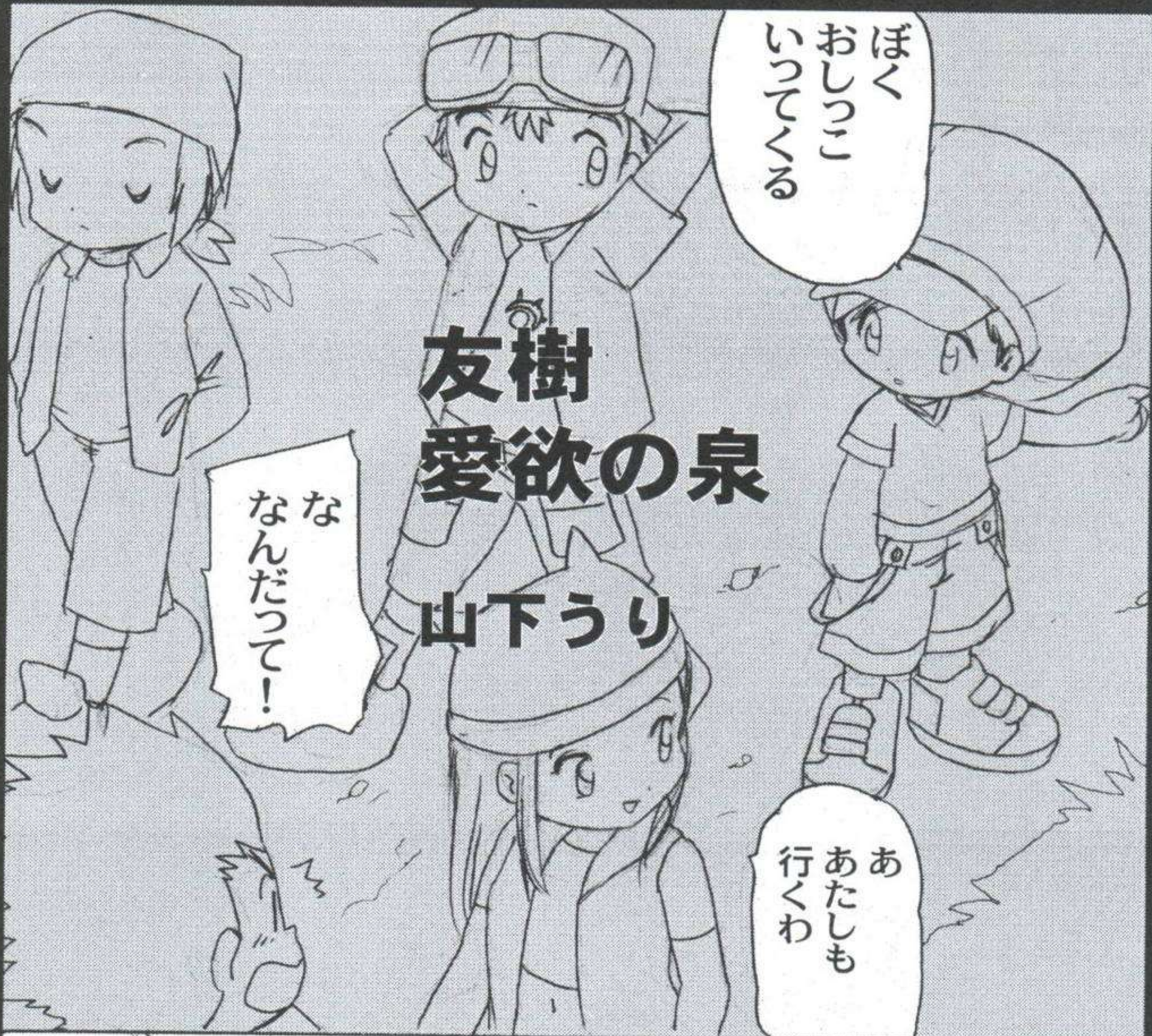
もっど
ルギちゃん
気持ちよくなってるね
うんっ♪
……ンニラちゃんも
一緒に……ね!



来れっ!!
『新聖人』
ッ

脳内HPにて 電波のみで入団受付中っ!!





ぼく
おしっこ
いつてくる

友樹 愛欲の泉

山下うり

な
なんだって!

あ
あたしも
行くわ

先
行つてつ
ぞー

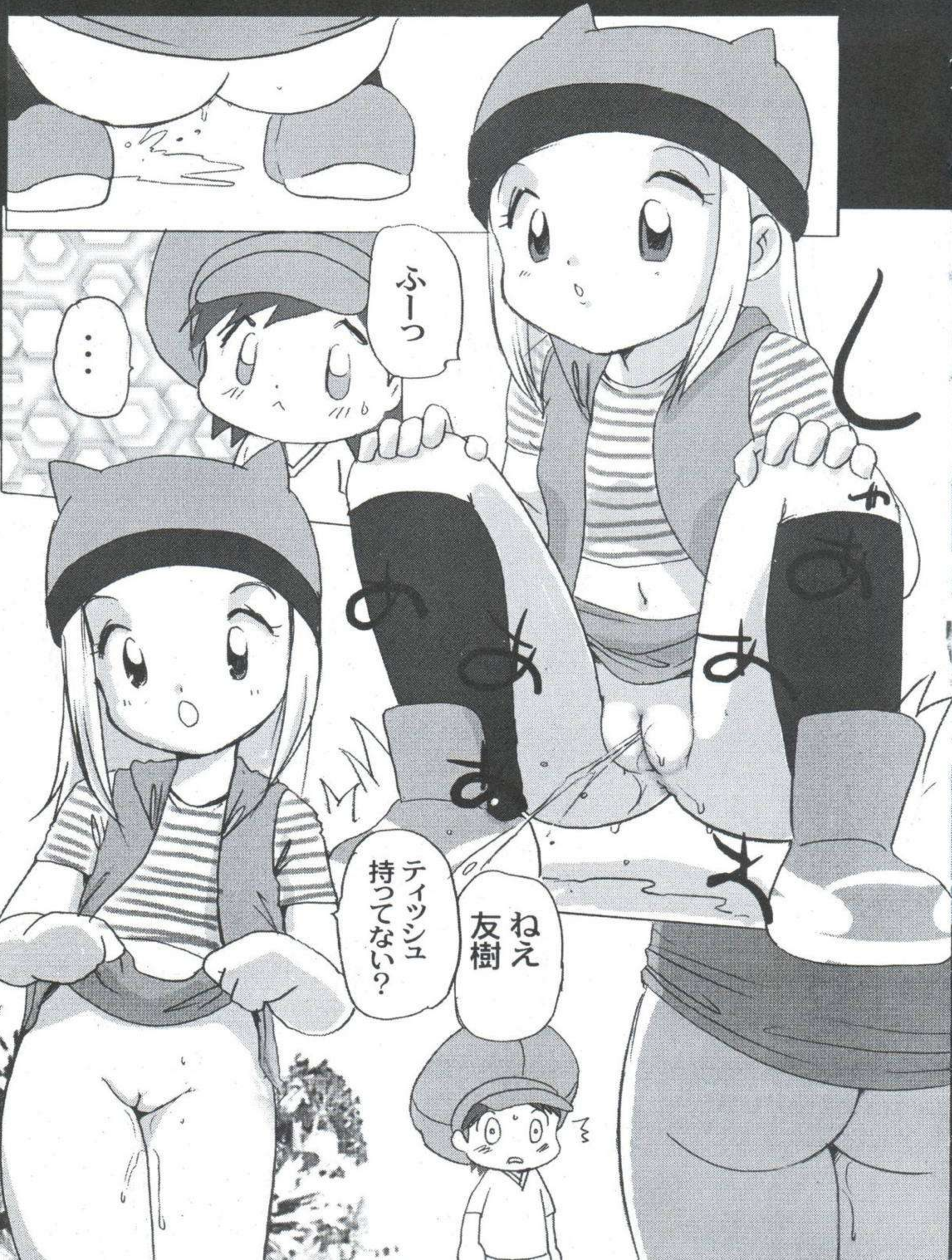
なんだよーっ
友樹は良くて
オレはためなの
かよーっ

ばか
何考えてん
のよ

おつ
オレも!







ふーっ

ティッシュ
持ってない？

ねえ
友樹

そして泉のわいせつ行為が始まった

おちんちん
治して
あげよっか

あつ
そんなつ
やだ……

チ
チ

ああつ

おちんちん
おちんちん
があつ!
気持ちいい?



泉おねえちゃん…
ぼく…どう
しちゃったの？

友樹、
ここに興味が
あったんでしょ？

いいよ、
好きなだけ
弄って…

おしこの穴…
見ていい？

あ

ふに



ベネ(良し)

上手よ
友樹...
とつても...

むいっ

ぷりっ
ぷりっ
ぷりっ

ほくのちんこ
また
カチカチコツチン
だよ...

泉おねえちゃん...

あつあつ
やんやあんっ

さっし

さっし

わっ

ぐん

はあん
もう我慢
できないのっ

ああんっ！

まんこに
入れちゃおう
っど

友樹の
ちんちん…

デイ・モールド
(非常に)
いいわあ…

はずかしい
ようっ

ぐん



あんっ
あんっ

友樹い
ステキ
よお…

ちゅ

好きよ…
友樹…

ぬい
ぽん

ぬい
ぽん

ぽん

わ

ぽん

わ
ぽん

わ
ぽん

わ
ぽん



うわっ
うわっ
うわっ

あああああ
出てるうっ

いっぱら
でてるうっ

進化して
性感アップ
なんてアリ?

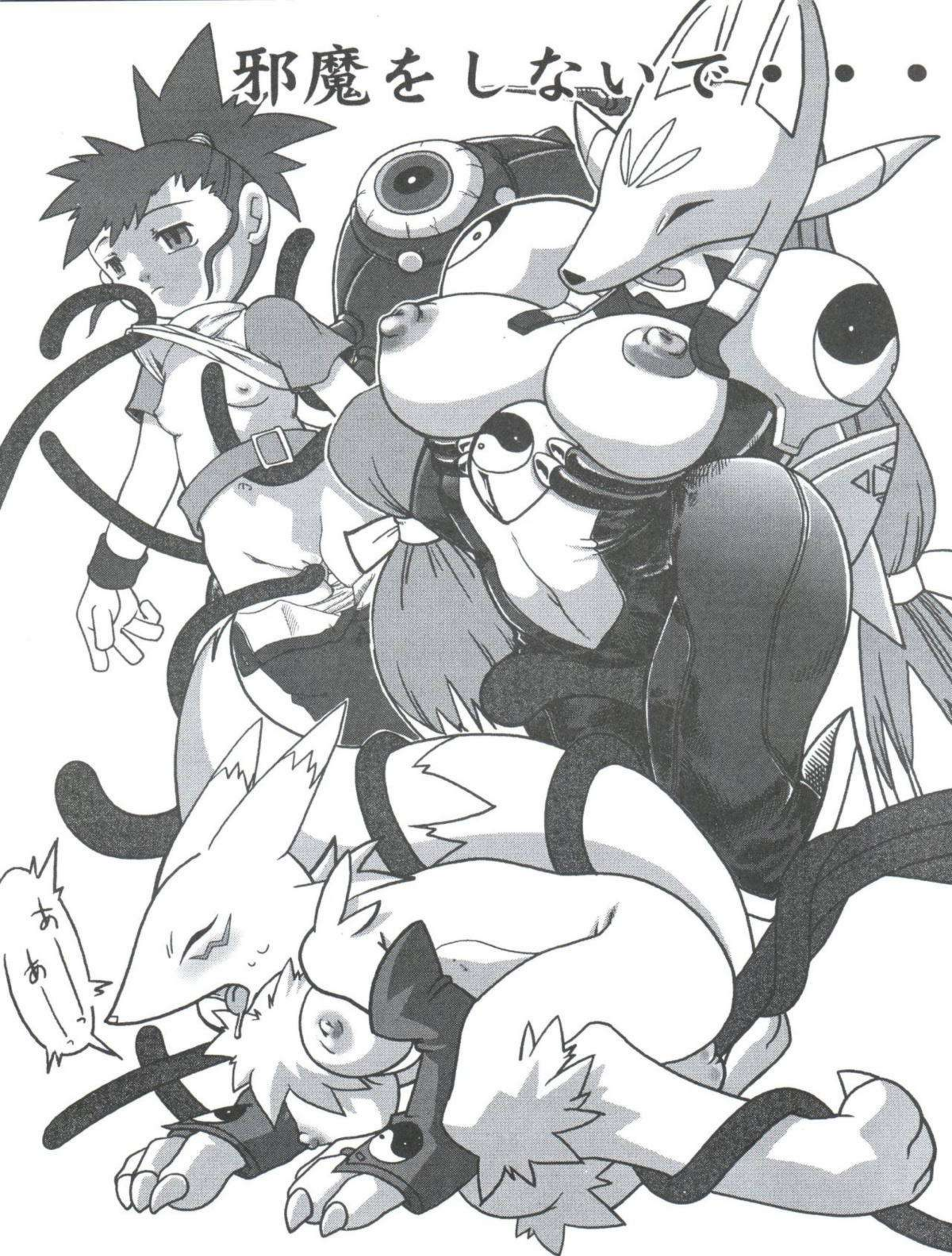
アリアリアリアリア
アリアリアリアリア
アリアリアリアリア

アリーヴェ.
デルチ
(さよならよ)

完

びっ
ん

邪魔をしないで・・・





『マトリックス エボリューション』

MATRIX EVOLUTION

ひとりにはさせない

B.G.M. ひとりにはさせない / ロックマン (※)

by. まーいCAT





ああん、なっ汗の
肉体、我が肉欲
の全てを満たして
なお心地よき事
トカカのこと...

上無キ
の
ハハハ
快樂っ!!

ああん ロップモン
大きいーっ!!

びしょびしょ

びしょびしょ

びしょびしょ



ロップモンおんっ
もうだめえーっ!!

わっ我も...
絶頂に
達せりっ!!

ドン

ドン



なっ汗
泣く
コトなかれ
今すぐ
進化させる
なりっ

おしまい

ロップモンのガ
小ヤゴなっやっ
ギャだあーっ
びええーっ
あだせいや
気持が
よくな
んだあ



ロップモン
気持ち
よかった
ねーっ

あれ?

人間との女接が
これほど良キ
ものとは...えっ??

おしまい

どーも! まーいCATです。とりあえず
 タイマーズ終了記念とゆーことで前回、
 (ギッツ魂03)一部で好評だったイヅメ
 さんガルゴモンPartIIです♡ 今回は
 インアモンに加え、デザイン的にお気に入り
 のモノドラモンも参加しての3Pでどーぞ!
 (しかも毎回ガルゴモンは猫いるな(笑))



モノドラ、カワイルンだけと事バイマイチ...
 by M.CAT

ザンザン

いっ泉
ちやあんっ!!
すげえよあっ

いっ泉

あっ!



あたしきまっ
純平っ!
Piu!



おんおんおん
おんおんおん
なんっ...くっ!!



ザンザン



何で
こんな
トコに...

ゴッゴッ
ゴッゴッ
おっ!!



純平っ!
ぞ、ぞれっ!!

ほんっ
ほんっ

え?

いっ泉



スピリット
モリション!!



ええいっ



しなも反志
うめっ!!



モーン!!



え!?

よかったわよ
純平っ♡

今晚も一度
相手して
あげるわっ



純平も
進化
できてる??

よかった
じゃない

よかぬエよ
もう少しで
泉ちゃんの中
でイケたのに...

ほんっ

おしまい



な
なごよ...

これっ!?



なんなの
いったい
ここは?



**カーネルスフィア
雷覇ZRX**

誰か...

誰かいない
の——っ!?





あんっ

あああああ
ああ~~~~っ!!



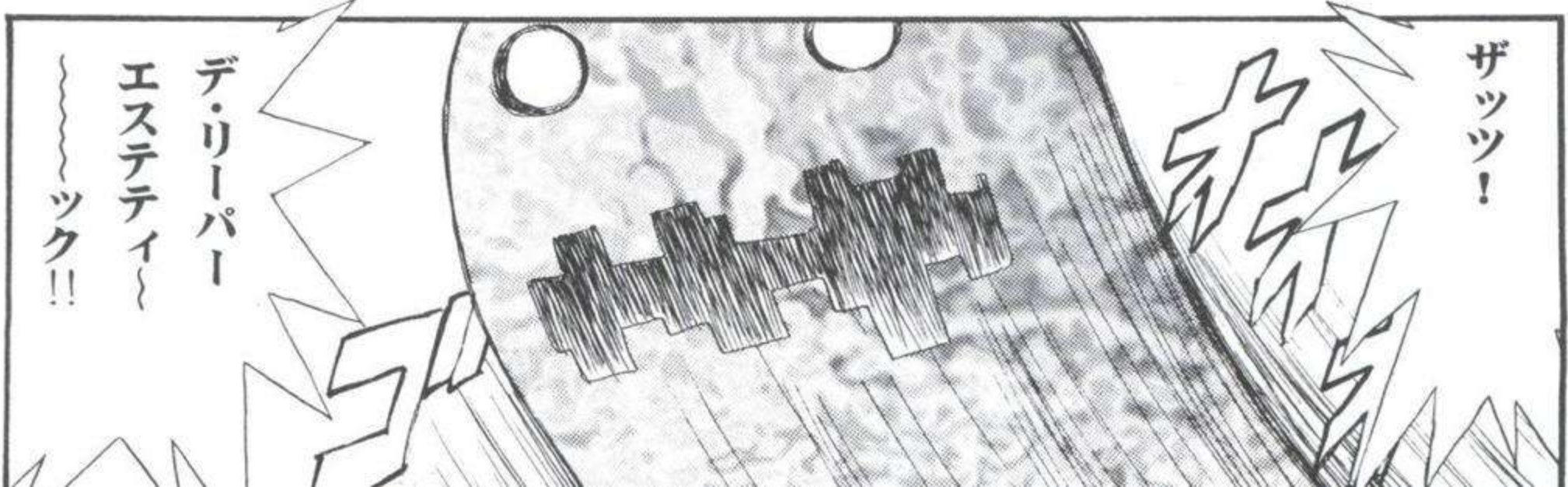
なんだか:
スゴク:すつきり
した気がする:



あ:

はあ
はあ

やっと
終わった



ザッツ!
オオッ

デ・リーパー
エステティ
~~~~  
ツク!!

終





な...  
なに...?!  
なんなの?!

...え!?

クワクワクワ

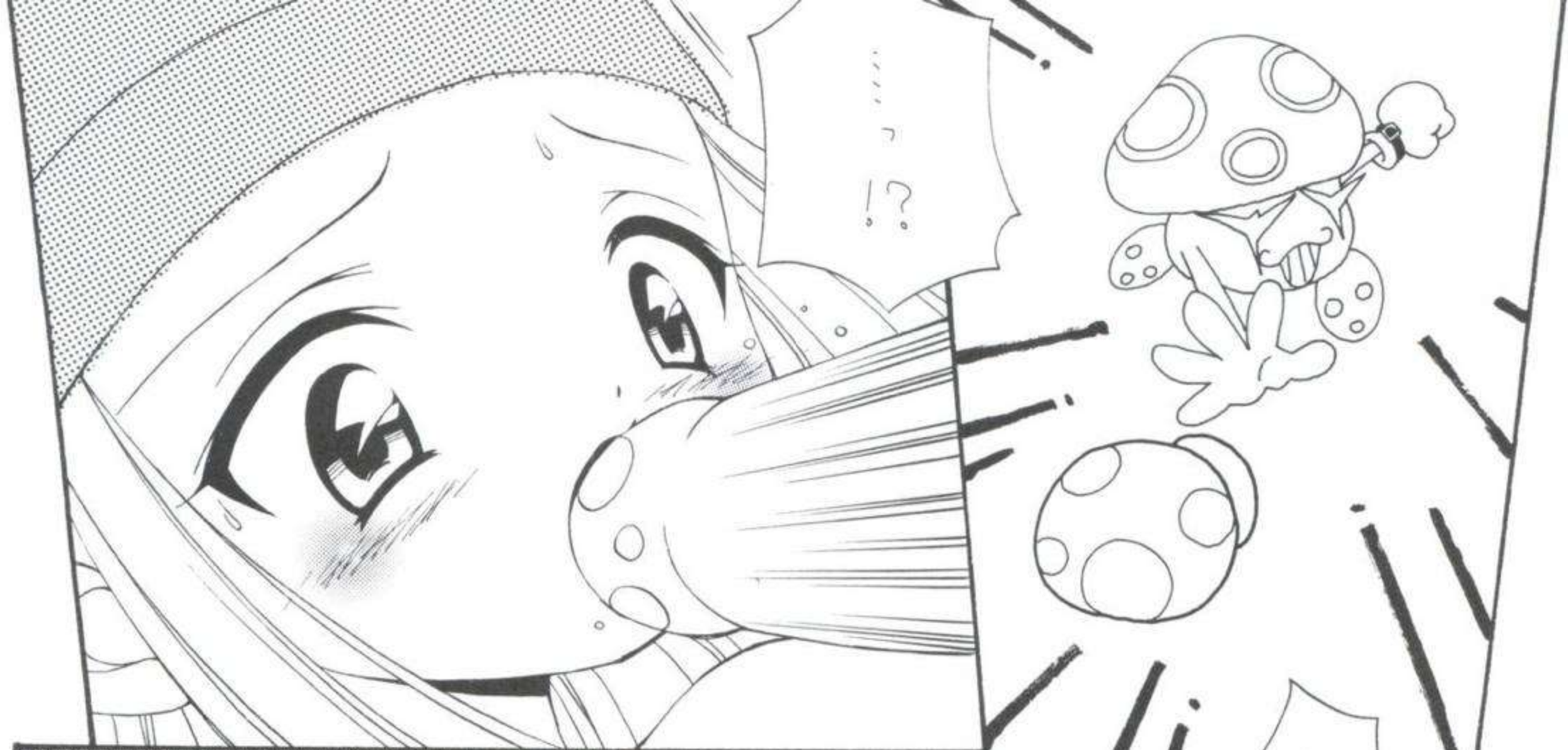
クワクワクワ

クワクワ

クワクワ

...クワクワ!!  
クワクワ!!  
クワクワ!!













아얏아얏

~~~~~!!

んふう!

~~~~~

~~~~~!



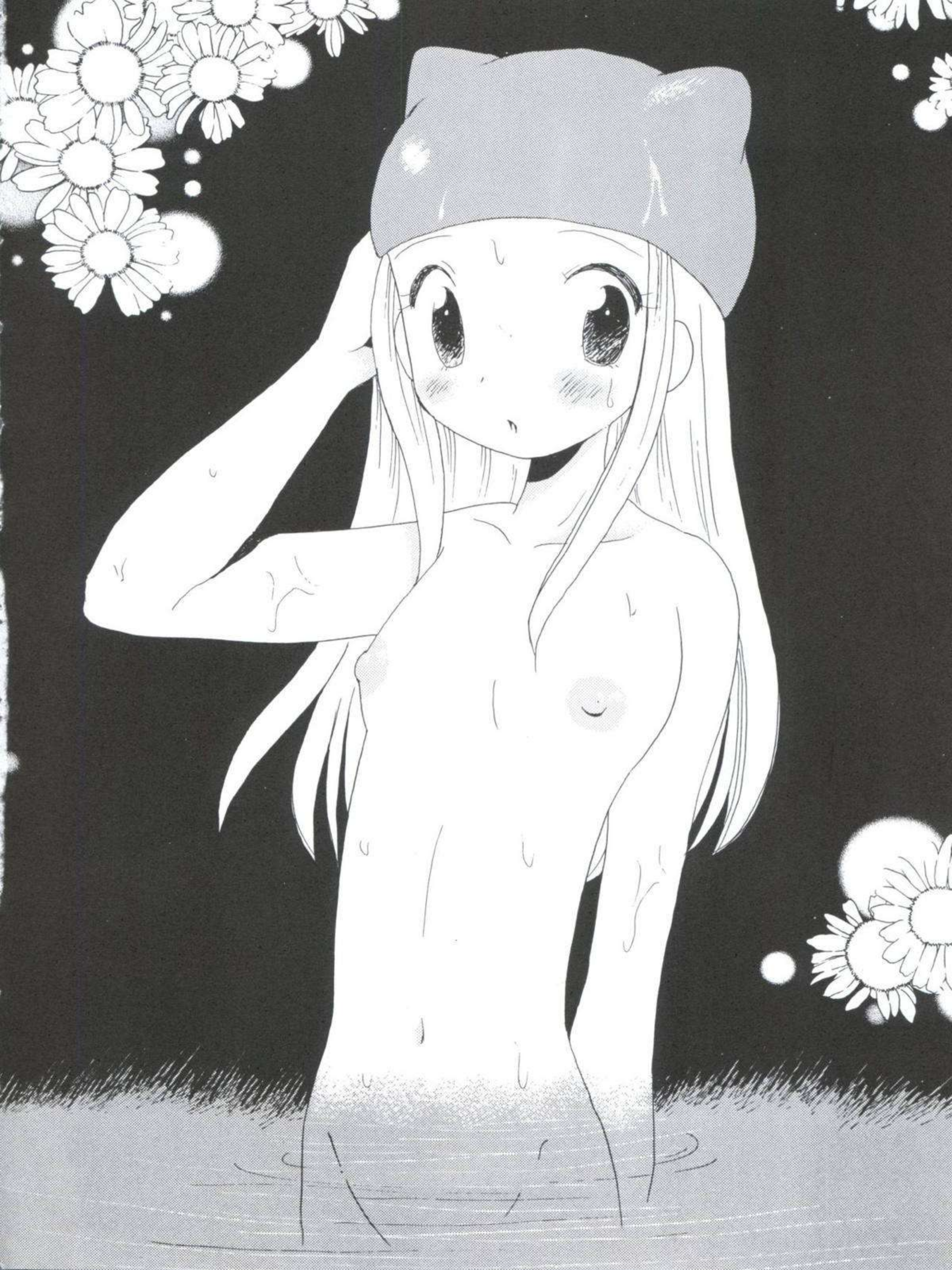
ほらっ…友樹

おチンコのほうは
まだまだへたばって
ないんでしょ？

—あんなにタツプリの
精液ミルクをブツ放したのに
相変わらず真上に
突き刺さるたまままで…
しかもますます激しい
脈打ちよっ！

射精だしても射精だしても
ビクンビクン勃ちっぱなし…
小さなカラダなのに
何ていやらしいおチンコを
とっ付けてるの!?

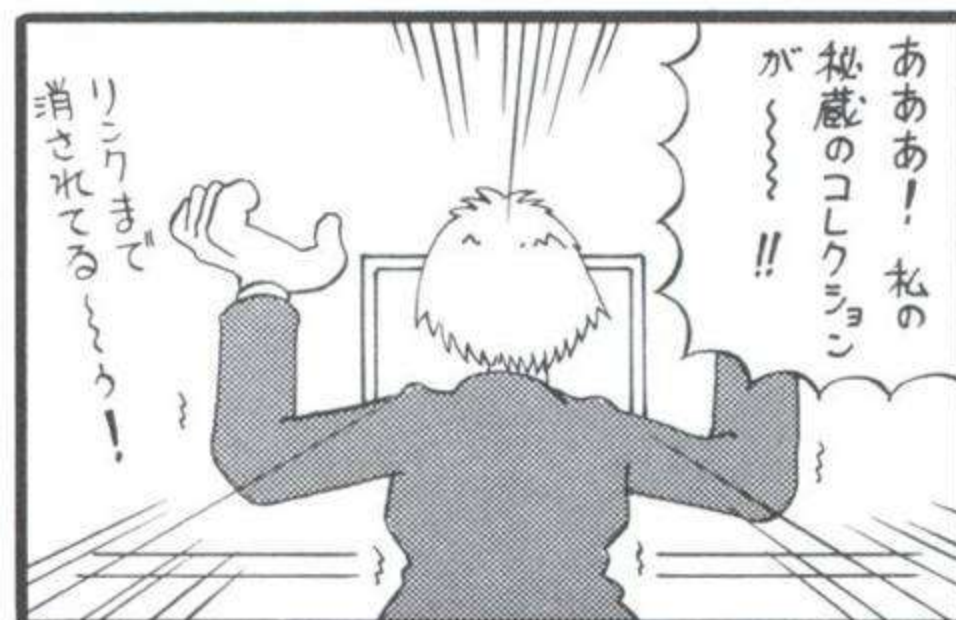
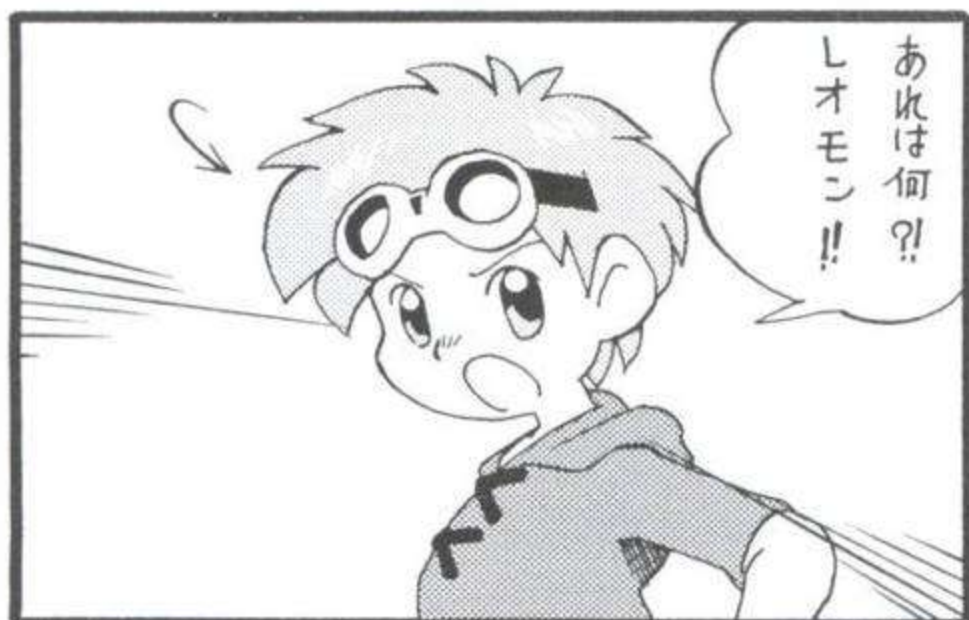
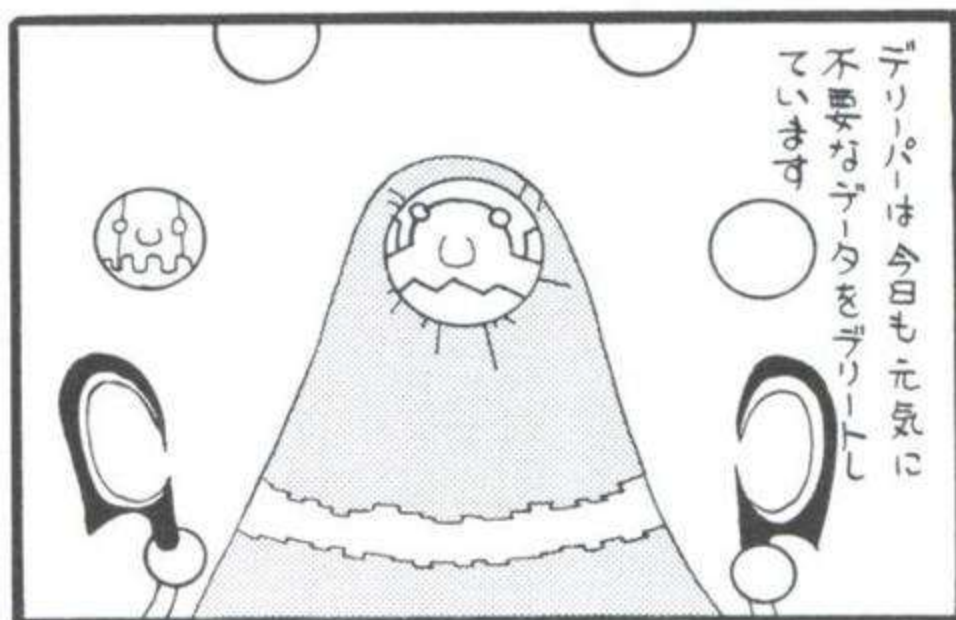
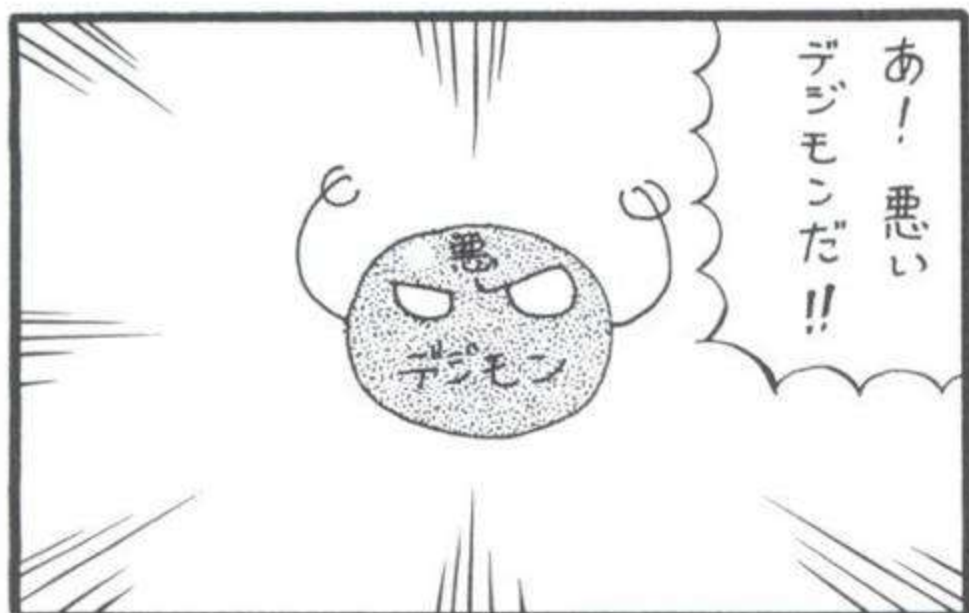


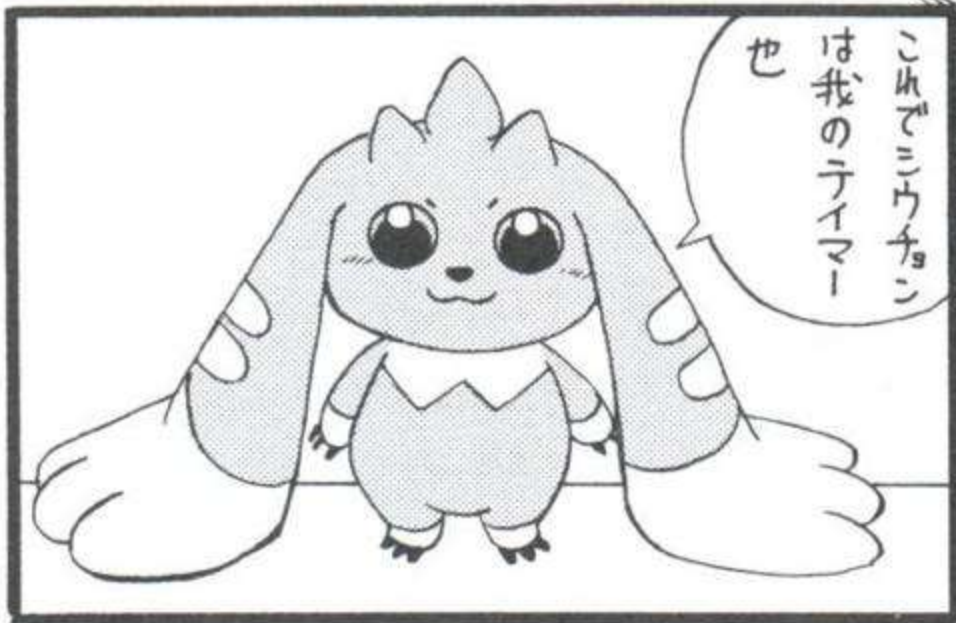
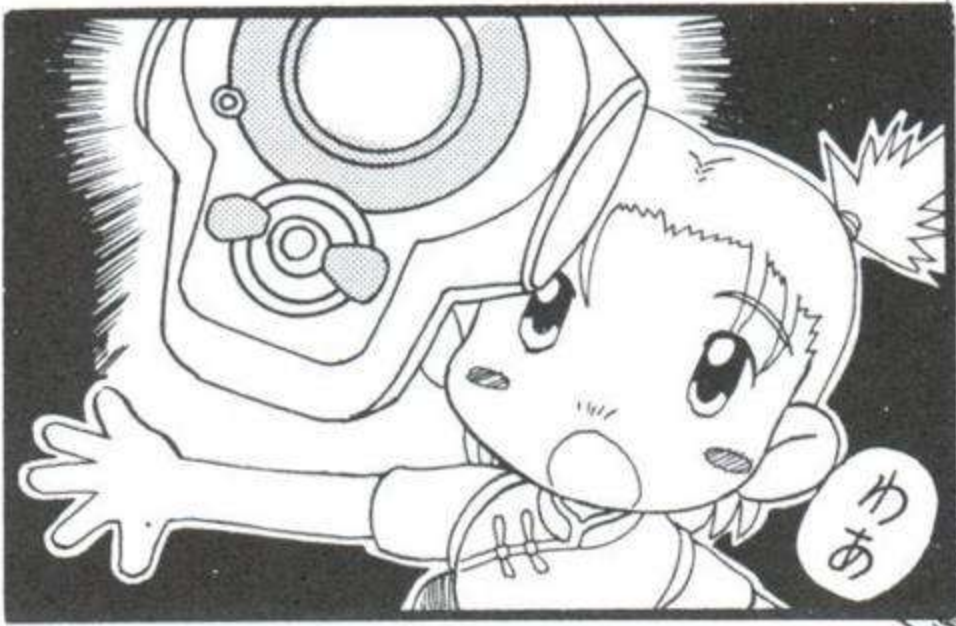


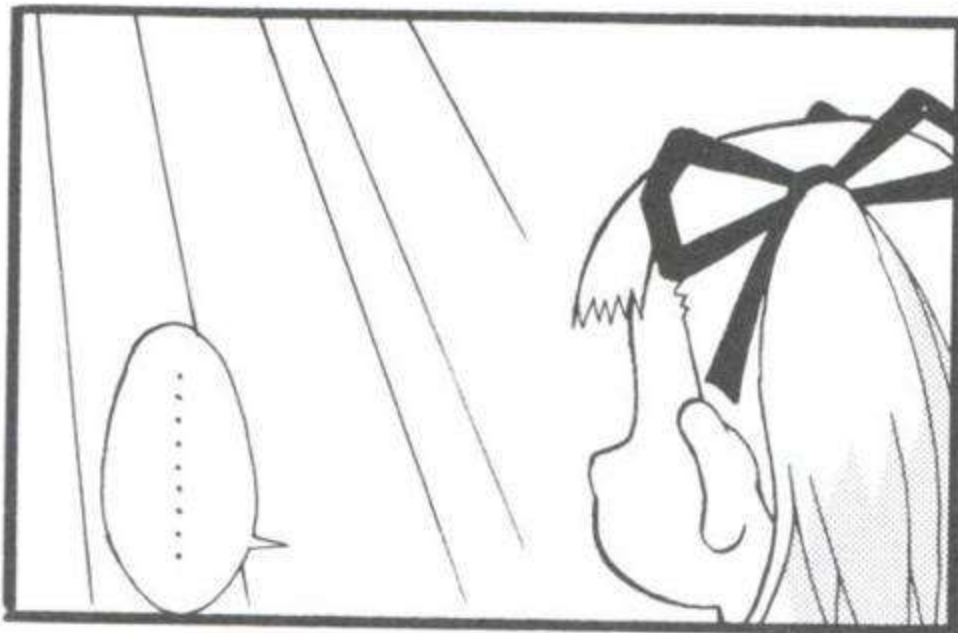
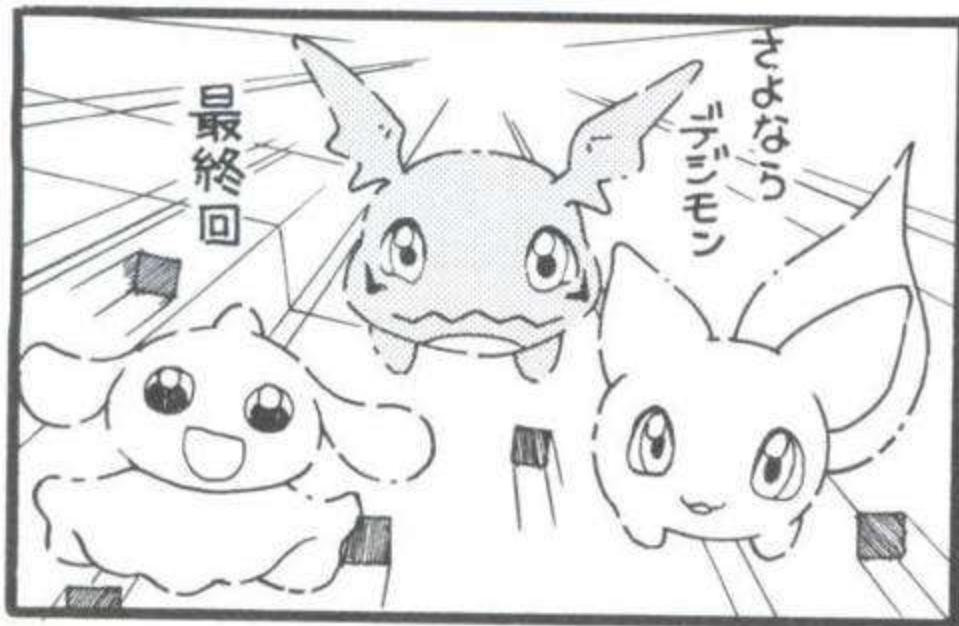
お騒がせ ジュリエットさん

POP.OFF

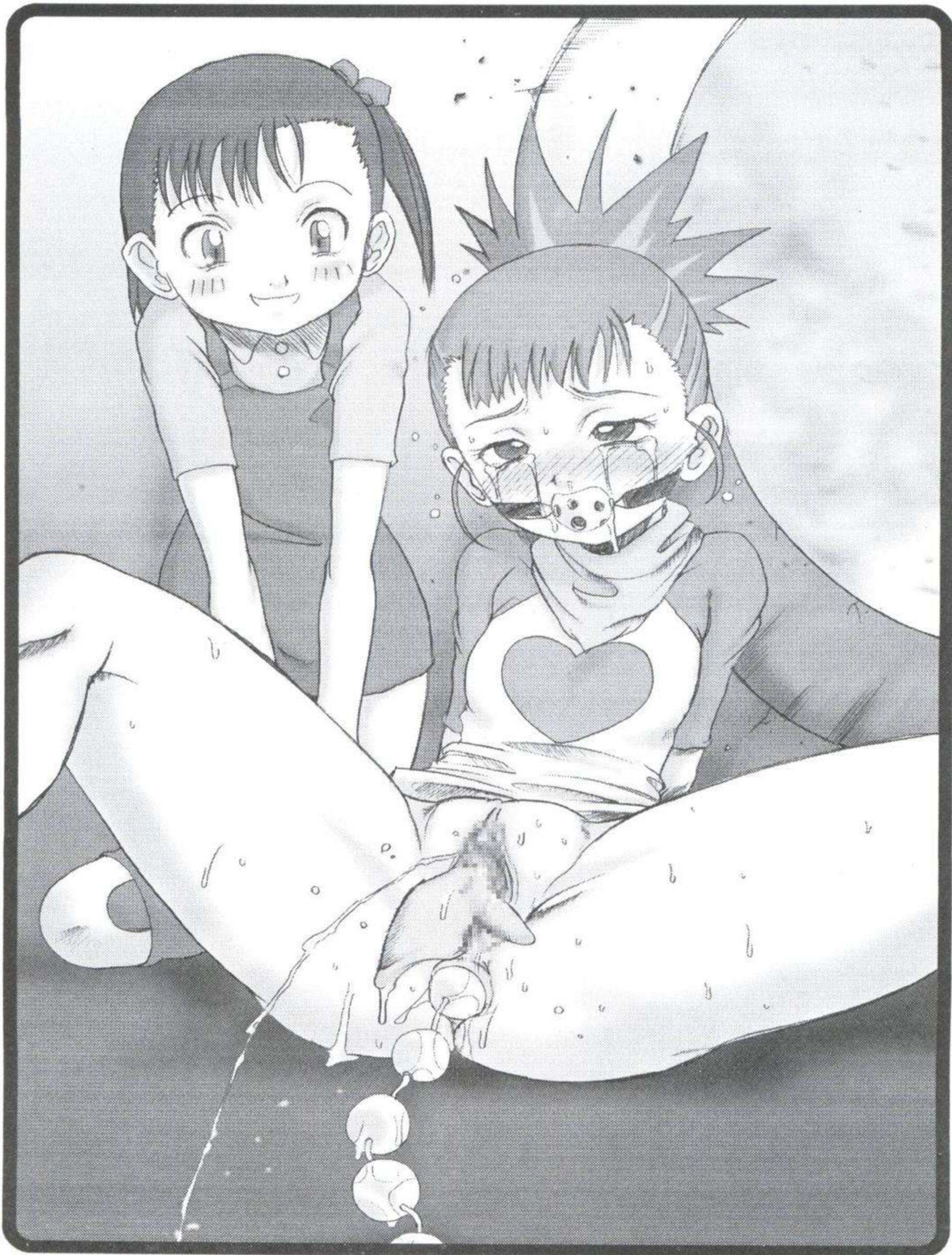




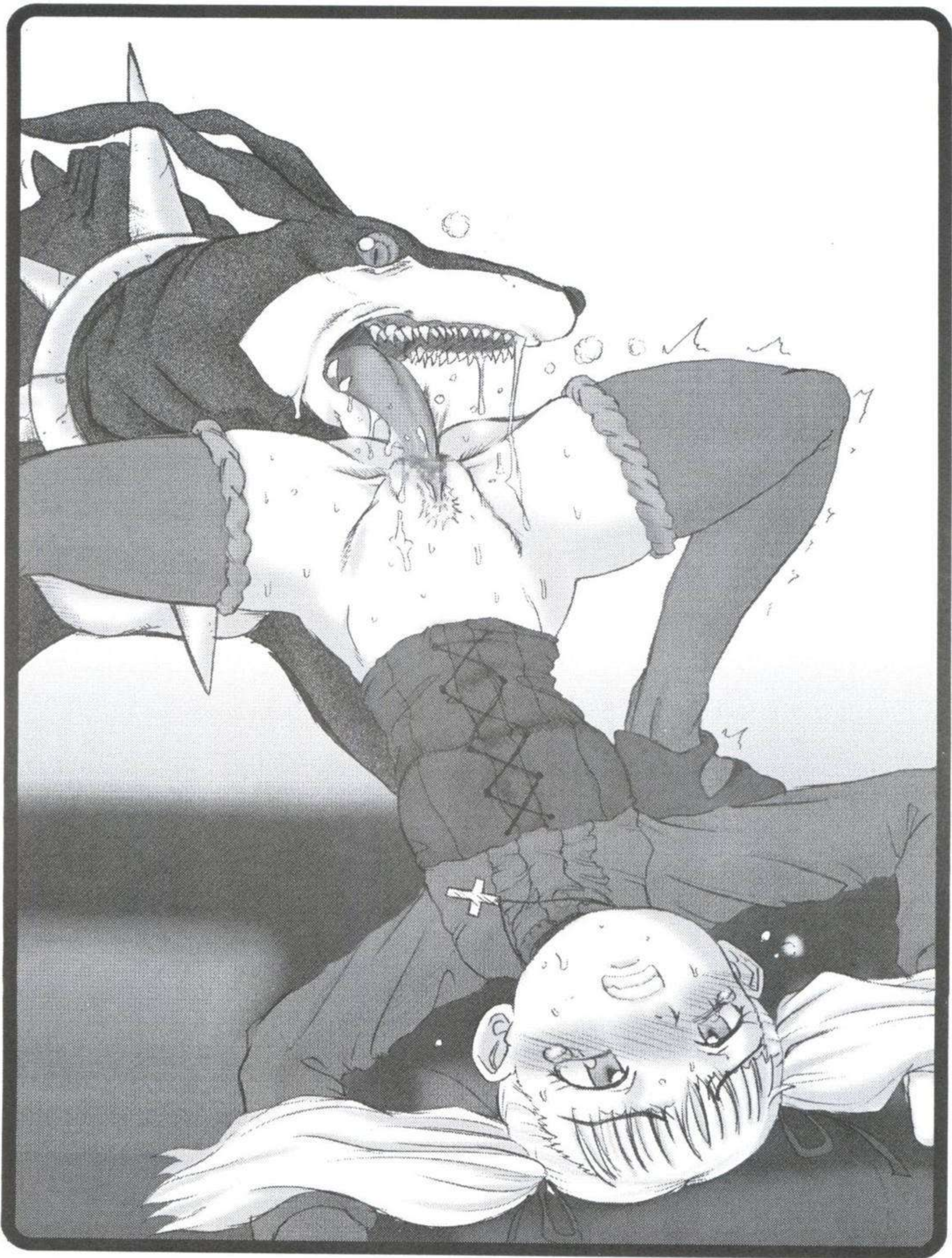






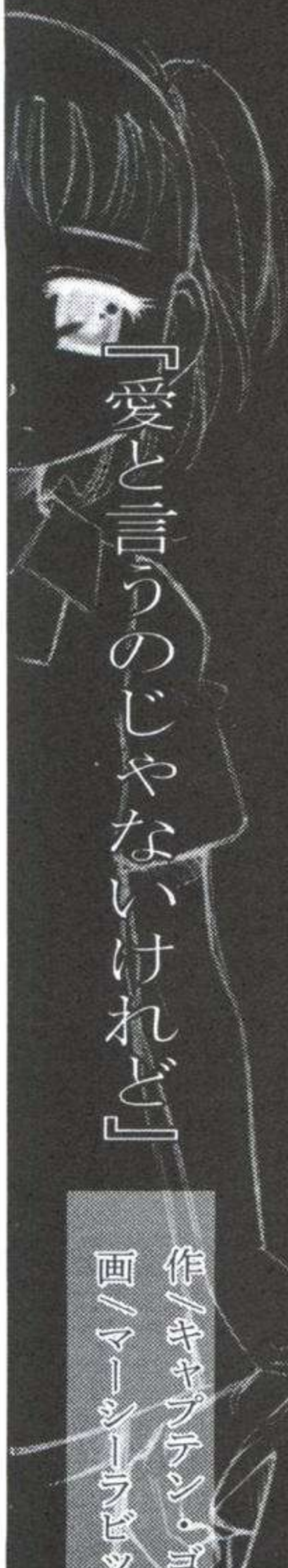






『愛と言うのがじやないけれど』

作／キヤプテン・ゴメス
画／マーシーラビット



私の名前は加藤ジュリ。

新宿に住む小学生の少女です。

私の家は小料理屋をやっています。

夜ともなれば小さな店はくたびれたサラリーマン達でいっぱいになります。

忙しいときは私はお店の手伝いになりだされます。

仕事や人生に疲れたおじさん達を相手にグチを聞いたり、お酌をしたり。

有線放送の演歌が流れ続ける店の中で、私はかいかいしく働いています。

第一章

あれは数年前、まだ私が小学校低学年の頃の事でした。

家に新しいお母さんが来ることになる、とお父さんが言いました。

私のお母さんはずーっと昔に死んでしまいました。

私はショックでした。私のお母さんは死んでしまったお母さん、ただ一人だと思っていたからです。

結婚は好きな人同士がするものだ、と大人の人はいいます。お父さんはもうお母さんが嫌いになってしまったのでしょうか？死んでしまっても大好きだとこの間まで言っていたのはウソだったのでしょうか？

新しいお母さんが家に来ました。しかし私はどうしてもその人になつくことが出来ませんでした。

お父さんにも裏切られた気持ちが出て今までのように接する事が出来なくなりました。

その頃家にはお店で働く若い男の人が下宿してました。その人はお父さんを親方と呼んでいました。

お父さんもお客さんにその人を、俺の一番弟子だと紹介してました。

私はその人の事をお兄ちゃんと呼んで、実の兄の様に慕ってました。新しいお母さんが来てからは一層なつくようになりました。だってこの世に私の味方はお兄ちゃんしかいない様な気になってたからです。

ある夜、夜中に目を覚ますと私はトイレに行きました。その時偶然にも夫婦の営みをする両親の姿を見てしまいました。

裸で抱き合うお父さんと新しいお母さん。苦しそうで、それでいて甘えるような不思議な、今まで聞いた事のない新しいお母さんの声。それを観た瞬間に私は『いけないことをしている』と理解しました。

胸が締めつけられ、喉の奥になにか大きな固まりがつかえてしまった様で声も出せず、息も出来ませんでした。トイレに行くことも忘れて私はそこに立ちつくしてました。知らず知らずのうちに涙が頬を濡らしてました。

気がつくとは私はお兄ちゃんのお部屋のドアをノックしてました。なにも言わずにお兄ちゃんを私を部屋の中に入れてくれました。そして一緒のお布団で眠りました。お兄ちゃんのお布団は当たり前だけれど、お兄ちゃんのニオイがいっぱいいました。

でも、私は恥ずかしい事にその日お兄ちゃんのお布団におねしょをしてしまいました。けれどお兄ちゃんに決して怒ることなく、私のパジャマや下着を取り替えてくれました。おねしょの事もお父さん達にナイショにしてくれました。

この日から私はちよくちよく夜中にお兄ちゃんのお布団に忍び込むようになりました。お兄ちゃんも私のために部屋のカギをかけずにいてくれる様になりました。

第二章

それからしばらくしたある日、お父さんが言いました。

「ジュリ、今度お前に弟が妹が出来るぞ」

お父さんはとても嬉しそうでした。お義母さんはなんだか恥ずかしそうでした。私は嬉しそうなふりをしてました。でも心の中はもやもやしていました。巧言善言に出来ないけれどイヤな感じでした。

でも、それは決して口にはいけなと自分でもわかっていたので、なんでもないフリを両親の前ではしていました。

それからまた何日が過ぎました。お義母さんのお腹がだんだん大きくなり、お父さんも「今度は男の子だったら嬉しいなあ」とか事あるごとに口にする様になりました。二人とも幸せそうでした。

しかし私は心に溜め込んだもやもやが爆発しそうなくらいになってました。そしてついに私は夜中にお兄ちゃんのお布団の中で心の中にあることをすべて告白してしまいました。お父さんの再婚のこと、あの夜のこと、生まれてくる赤ちゃんを祝福できないこと。いつしか私は泣いてました。

すべてを聞き終えたお兄ちゃんは、「ジュリちゃん、辛かったんだね」と言ってお父さんを抱きしめてくれました。お兄ちゃんはお布団の中で色々なことを話してくれました。結婚というものについて。あの晩私が見たのはセックスと呼ばれる行為だと言うこと。セックスは本当に好きな人同士がする行為であること。お父さんとお母さんが愛し合ってセックスをしてその結果私が生れたこと。お父さんとお義母さんが愛し合って、その結果今度私に弟か妹が生まれること。いつか私も大人になったら愛する人の子供を産むということ。そして、人はどんなに辛く哀しいことでも時が経てばそれを忘れてしまふという事。すべてを理解することは私には出来なかつたけれど、それでも子供の私に真剣に答えてくれる大人がいることが嬉しかった。そしてそれが大好きなお兄ちゃんだという事が嬉しかった。

そしてお兄ちゃんは最後にこう言うてくれました。

「世界中の誰もがジュリちゃんを悪い娘だと叱っても、僕はジュリちゃんの味方だよ」

その言葉を聞いて私は両親の再婚以来はじめて心が落ち着いてきた気持ちになりました。

私はお兄ちゃんが今まで以上に大好きになりました。初恋ではなかつたけれど。

私は毎夜のようにお兄ちゃんのお布団に忍び込んで眠る事がクセになりました。お兄ちゃんのお布団で眠った日は夢見が良かったから。風に舞う私、空を飛ぶ私、海の中を自由に泳ぐ私、目が覚めると夢の内容は忘れてしまふけれど、幸せな気持ちだけは一日中ずっと続いていました。

ある晩いつもの様にお兄ちゃんのお布団で眠って、夢を見ていたときにふいに目が覚めました。私はハダカでした。来ていたはずのチェックのジャマも、夕べお風呂に入ったときに替えたお気に入りのくまさんパンツも身につけていませんでした。掛け布団もかかっていませんでした。私はハダカで大の字になって布団のうえにいました。私はなにがどうなっているのかワケがわかりませんでした。怖くて目を開けることも出来ずそのまま眠ったフリをしつづけていました。そばにはお兄ちゃんの心配がしました。目を閉じているせいか時計の音がいつもより大きく聞こえました。落ち着いて良く聞くとお兄ちゃんの息づかいも聞こえてきました。なにかが私の身体に触れました。胸に触れたのはお兄ちゃんの指でした。少しざらざらした指先がやさしく私の乳首を撫でていました。くすぐったいのをガマンしていると今度は濡れたなにかが私のおへそに当たりました。

「あんっ……」

私は思わず声をあげてしまいました。私に触れているお兄ちゃんの身体がピクンとなりました。私をあわてて寝言のフリをしました。わざとらしく身体をくねらせて寝返りを打ちました。何故かどうさにごまかすことを思いついたのです。しばらくしてお兄ちゃんの指がまた動き始めました。ふたたび濡れた何かが私のおへそに触れました。薄目を開けて様子を見るとお兄ちゃんの手が目の前にありました。少しだけ考えてお兄ちゃんのおへそを舐めているのだと理解しました。濡れているのはお兄ちゃんの舌だったのです。お兄ちゃんの舌が触れているのはお腹の外側なのに、お腹の内側がきゅーっとなりました。熱いような、くすぐったいような、気持ちいいような不思議な感じがしました。その不思議な感じはどんどん大きくなりました。お腹の中というよりもっと下の方がジンジンとしてきました。なんだかおしっこをガマンしているときの様な感覚でした。だんだんとガマンできなくなって吐息が漏れてしまうようになりました。でももうお兄ちゃんには以前のようにピクンとしたりしませんでした。

そして、おへそからだんだんと下がっていったお兄ちゃんの舌が、私の大事なところを舐めました。いつのまにか私の胸を触っていたはずのお兄ちゃんの両手は、私の両脚を大きく広げていました。私のオシッコをする恥ずかしい所にお兄ちゃんは顔をうずめていました。犬のようなお兄ちゃんの鼻息が聞こえました。何度も何度も私の大事なところをお兄ちゃんの舌が往復しました。次第に私の頭の中は白くなっていききました。不意に意識が途切れることもありました。そして完全に頭の中が真っ白になり、私はそのまま眠ってしまいました。朝目覚めたときにはお兄ちゃんのお布団の中でした。掛け布団もかけられていましたし、くまさんパンツもジャマも眠る前と同じように身につけていました。まるで夕べの事が夢であるかのように……

その日の授業は上の空でなにも頭の中に入っていないままでした。授業がいつもの何倍にも感じられました。ようやく学校が終わわり、家に帰ると私は自分の部屋へ駆け込み、服を脱いで下着姿になりました。そして自分の指を使って夕べの出来事を再現してみました。自分の手で自分の胸を撫でてみたり、指先で乳首を摘んでみたりしました。けれどどうも体験した頭の中が白くなるような感じやお腹の中がきゅーっとする様な感じはありませんでした。妙に気恥ずかしい感じがするだけでした。そこで私はおそろおそろ手をパンツに伸ばしました。さすがに自分で自分の大事なところは舐めることは出来ないのです。パンツの上から指で撫でたりこすってみようと思いついたのです。お兄ちゃんがしたようにお尻の方からゆっくと割れ目に沿って右手の中指を前の方に動かしました。お尻の穴の真上あたりに着たときにぞくぞくと背筋が震えました。そして指がオシッコが出るところの上に来たあたりで、頭の中が白くなる『あの感じ』がやってきました。同時に私は

「ああん……」と声を漏らしていました。夕べは声を出すことが出来なかったもので、ここぞとばかりに思うまま声を出しました。指を動かすスピードが次第に早くなりました。濡れる声も吐息も早く大きく荒くなりました。パンツに伸ばした指先に違和感が訪れました。

パンツが濡り始めていました。私はオシッコを漏らしてしまっただと勘違いして青ざめました。けれど指を動かすことはやめられませんでした。この行為をやめてはいけないと心の中で誰かに言われているような気がしました。右手を動かしながら、左手で再び乳首を摘んだりしてみました。不思議なことに今度は胸のあたりからビリビリくるような気持ちよさがこみ上げてきました。

「ああっ……」

今まで一番大きな声で漏れてしまいました。パンツの濡りも大きくなり不思議なニオイが立ちこめはじめました。私は立っていられなくなって立ちヒザの姿勢になりました。パンツにあてた指を動かす度に腰がガクガクと震えました。頭の中が真っ白になりつつある中で、私はあの晩に覗き見た両親の秘密を思い出していました。

夕べお兄ちゃんにされた事は、あの晩お父さんとお義母さんがしていたことじゃなかったか？今、私が漏らしている吐息と声はあの晩のお義母さんと同じだよ？ならお兄ちゃんに私にされたことは愛し合う人たちがする事だよ？私がお兄ちゃんを好きなようにお兄ちゃんも私のことが好きなんだよ？お父さんとお義母さんを好きなくらいにお兄ちゃんも私のことが好きだよ？夕べのあの行為はその証拠だよ？ねえ、そうだよ？絶対にそうだよね？

なにかにすがるような混沌としてまともでない考えの中で私ははじめて自分で自分を慰める行為をし、そして達しました。その行為をオナニーと呼ぶことを知るのはいく少し後のことでした。

その晩からも今までと変わらず私は夜中にお兄ちゃんのお布団に忍び込むのを続けました。変わったこととお風呂で身体を洗うときに今までよりも丁寧に洗うようになったこと。そしてお兄ちゃんとの秘密の行為に胸を高鳴らせ、行為がエスカレートしていくことを期待させてパンツを濡らしていたこと。そしてお兄ちゃんには私の期待を決して裏切ることなく毎夜私を可愛がってくれました。

今にして思えば、私の心と体は大人になるよりも先に汚れてしまったのです。そのことを決して後悔しているわけではないけれど。



第四章

いつものように深夜のお兄ちゃん部屋の扉で私は眠ったふりをしてお兄ちゃんのお撫を受けていました。私は快楽の波にたゆたいながらお兄ちゃんのお撫の手順を覚えていました。翌日、自らの手で反芻する為に……

不意にお兄ちゃんのお撫が止まりました。手や指や舌が私の身体から離れた。こんな事は今まで一度も無かったことです。いつもなら私の頭の中が真っ白になるくらい気持ちよくなるまで終わらないのに……。しかしお兄ちゃんのお配は近くにありません。私はおそれるおそれる薄目を開けて辺りを見渡そうとしました。

「きやつ」

寝たふりをしていたはずなのに、つい大きな声を出してしまいました。なぜならお兄ちゃんが微笑みを浮かべて私の顔を覗き込んでいたからです。私が寝たふりをしてることをお兄ちゃんは気がついていました。私は子供だからそれに気がついていなかったのです。私は真っ赤になりました。お兄ちゃんの前であられもない姿でいることが、ではなく私のはしたない欲望がお兄ちゃんに筒抜けだったことがこのうえなく恥ずかしくなりました。真つ赤な顔をしているのが自分でもよくわかりました。耳までジンジンしています。

「ジュリちゃん、気持ちよかったですか？」

私はうなずくことさえ出来ませんでした。とても恥ずかしくて目の前が真っ暗になりました。私がお兄ちゃんの子だと知ったらお兄ちゃんはお兄ちゃんのことを嫌いになると思いました。私はお兄ちゃんのお顔を見ることが出来ず、ただ怯えるだけでした。

「ジュリちゃん、今度はジュリちゃんが僕を気持ちよくしてくれないかな？もし僕をイカせてくれたらお礼にジュリちゃんをイカせてあげるよ」

お兄ちゃんのお言葉は私にとって意外なものでした。

「ジュリちゃんのかわいい身体を覗いていたら、僕のおチンチンがこんなになっちゃったんだよ」

そう言われて私は初めてお兄ちゃんも私と同じようにハダカになっただけで、お父さんとは違って色白で痩せすぎた感じの身体。そして太くて大きくて天井を向いているおチンチン。お風呂場で何度もお父さんのおチンチンを見ていたけれど、お父さんのはいつも下を向いていて、そうまるでシッポのようでした。でもお兄ちゃんのおチンチンは天井を向いています。シッポという感じは全然しません。よく覗くと色もカタチもお兄ちゃんのおチンチンとお父さんのおチンチンは違っていました。

「お風呂で覗いたお父さんのおチンチンと全然違うね……」

私は思ったことを正直に言いました。

「男のおチンチンはね、大好きな人のことを考えるとこんな風に大きく固くなるんだよ。ジュリちゃん、触ってみてごらん」

そう言うとお兄ちゃんは私の手をオチンチンへと運びました。私はおそれるおそれるオチンチンに触ってみました。サラミソーセージみたいにくたくたくして熱かった。

「ジュリちゃんの手、柔らかくて気持ちがいいなあ。もっとオチンチンのあちこち触ってくれないかな？」

お兄ちゃんが本当に気持ちよさそうな声でいいました。私はオチンチンの先っぽのぶにぶにしたところを手のひらで撫でてあげました。まるで小さな子の頭を撫でるように……。するとお兄ちゃんは目を閉じて「あ〜〜」と気持ちよさそうな声をあげました。お父さんの肩を叩いてあげるとお父さんも同じように目を閉じて気持ちよさそうに「あ〜〜」と言います。私はなんだかおもしろいなあ、と思いました。しばらくすると手のひらになにかねばついた液体が付きました。しだいに量が増えていく感じがします。それにお兄ちゃんのおチンチンを撫でる手がすくよくよく滑るようになりました。気のせいかオチンチンの先も色が変わりだしているようでした。

「今度はこっちの手でオチンチンの根本の方も触ってくれないかな？」

空いた方の手でオチンチンの根本の方を握ってみました。太くて私の小さな手では上手に握れませんが。浮き出た血管がプニプニして不思議な感触がしました。そしてお兄ちゃんが上下にオチンチンをこすって欲しいと言うので私は言われたとおりにしました。片手で先っぽを撫で撫でしながら、もう一方の手で根本の部分を上下にゴシゴシとこきました。オチンチンとお兄ちゃんの顔を交互に見ながらゴシゴシとしごきあげると、しばらくしてオチンチンの先から白くて熱いドロドロとした液体が勢いよく飛び出しました。それはまるでテレビで観た牛のおっぱいを搾っている仕事を上下逆さまにしたみたいでちよつと面白かった。手のひらにその液体が当たったとき、私はびっくりして手をひっこめてしまったので、後から飛び出た白い液体が私の顔に少しかかってしまいました。その液体は漂白剤のようなニオイがしました。お兄ちゃんの顔を見上げるとも気持ちよさそうなお表情をしています。リラックスしているという感じでした。いっぱいあふれ出た白い液体はお兄ちゃんのおチンチンとそれを握っている私の手につきました。ネバネバとして不思議な液体を舐めてみると、苦いような味がしないようちよつと不思議な味がしました。

「ありがとうジュリちゃん、最高に気持ちよかったですよ」

そう言いながらお兄ちゃんはキスするようにして私の顔についている白い液体をなめとってくれました。私の両手にたっぷりといっているのも舐めてくれたので、私はお返しにお兄ちゃんのおチンチンについているのを全部なめとってあげました。ドロドロしていて飲み込むのはちよつと大変でした。お兄ちゃんのおチンチンは白い液体と私のツバが混ざった変なニオイがしました。

「じゃあ、約束通り今度はジュリちゃんをイカせてあげるね」

お兄ちゃんがにっこり笑って言いました。その笑顔を観るだけで私は胸の奥がキューンとなって幸せな気持ちになりました。

「でもその前にいろいろ男と女の身体のことを勉強しようね」

そう言うとお兄ちゃんは自分のオチンチンを教材にして男の身体のことを教えてくれました。普段の小さなオチンチンが実際に大きく膨らむところを見せてくれたり、最初にオチンチンの先から漏れる透明な液体と最後に出た白い液体の違い。最初のはカウパーなんとかという名前、後の白い液体は精液という事。オチンチンの先は亀頭と言う名前だということ。オチンチンの擦り方や握り方。オチンチンを舐めてあげる事をフェラチオと呼ぶこと。男の人は精液が出るのと絶頂に達するのが同時だということ。何も知らない私にはすべてが驚きの連続でした。

そのあとお兄ちゃんは私を机の上に腰掛けさせて脚をおおきく広げさせました。今度は私の身体を教材にしてのお勉強です。女の子の大事な部分はオマンコと呼ぶこと。しだいに体の中から溢れてくる液体は愛液という液体で、私はそれを『恥ずかしいおつゆ』と呼ぶように言われました。オマンコの上の方にあるちよつとした突起がクリトリスという部分でそこをお兄ちゃんが指でくいくいと押すと私は簡単にイッてしまいました。お兄ちゃんは私にクリトリスは『恥ずかしいおマメ』と呼ぶ様に言いました。なんで違う呼び方をするのか、お兄ちゃんに訊ねると、お兄ちゃんは「その方が可愛いから」と言いました。その恥ずかしいおマメの下にあるのが膣で、本当はココに勃起して大きくなったオチンチンを入れるのがセックスという行為なのだそう。お兄ちゃんが言うには私のオマンコは花にたとえると出来たばかりの蕾の状態なのでまだオチンチンはおるかお兄ちゃんの指も満足に入れることは出来ないそうです。でも私はお兄ちゃんとセックスがしたいと言いました。大好きなお兄ちゃんだから一緒にセックスがしたいと言いました。お兄ちゃんは少し困ったような顔をしました。

「じゃあ、時間をかけてジュリちゃんのおマンコを開発していこう。今すぐは無理だけれど時間をかけて丁寧にやればきつとセックスできるよ」

とお兄ちゃんは言いました。そして「じゃあ指をこの小さな穴の中に入れてごらん？」と言って私の指をオマンコへと導きました。すでに私のオマンコは恥ずかしいおつゆでぬれぬれになっていたのに、小さな穴に私の指はスルスルと入っていききました。お兄ちゃんに言われるままに指を出し入れするとすぐに頭の中が真っ白になってまた私はイッてしまいました。自分の部屋でオナニーをしている時はなかなかイケないのにお兄ちゃんに観られていると私はあつという間にイッてしまいました。ちよつと不思議でした。

「じゃあ、ジュリちゃんご褒美だよ」

そう言うとお兄ちゃんは机に腰掛けた私の股間に顔をうずめてオマンコを舐めはじめました。びちやびちやと恥ずかしい音が私の身体の下の方からします。お兄ちゃんはこの行為はクンニという行為だと教えてくれました。お兄ちゃんは、私が今どの部分をどうされているのか、またどんな風に気持ちがいいのか声に出して言うように命令しました。私は白くなりつつある頭の中で一生懸命考えて、今の気持ちを言葉にしました。けれど次第に考えることも言葉にすることも出来なくなりました。気持ちが良いすぎて自分が壊れてしまった様でした。声は出せても言葉は出せない、そんな感じで私はまたイッてしまいました。その後お兄ちゃんは私をお布団の上で四つん這いの格好にしました。両脚をびたりと閉じさせると、覆い被さる様にして私の身体の後ろから私の両脚の付け根のスキマに固くなったオチンチンを入れてきました。スマタという行為だそう。ふとももの付け根と割れ目にお兄ちゃんのおチンチンが触れただけで背筋がゾクゾクしました。さっきのクンニとはまた違った快感です。ゆっくりとお兄ちゃんが腰を前後に動かしてはじめました。

私の身体からも恥ずかしいおつゆが溢れはじめお兄ちゃんのおチンチンが濡れて、ますます滑りが良くなりました。お兄ちゃんのおチンチンが私のおマメを擦ると最高に気持ちが良いなりました。私は身体を動かして腰の角度を変えたりしていろいろ試してみました。一番いい角度でオチンチンがおマメを擦る角度をみつけるとその体勢を維持しました。ふと股間をみるとオチンチンの先っぽが私の身体から生えてきている様に見えて、ちよつと恥ずかしかった。そしてお兄ちゃんが精液を放出してイクまでに私は三回もイッてしまいました。



それからと言うもの私とお兄ちゃんは毎晩のように愛し合いました。私の身体の開発も丁寧に時間をかけて行われ、私の指から始まった異物挿入訓練はお兄ちゃんの指よりも太いサラミソーセージやキウリを使うようになっていました。

人というのは現金なものでお兄ちゃんとの関係が深まるにつれて、私と両親の間にあつたわだかまりみたいなものが消えつつありました。自分が幸せなせいとお父さんにもお義母さんにもやさしく振る舞うことが出来ました。幸せのお裾分けというのでしょうか、でも私は本当に幸せだったのです。

「もうそろそろ、いい頃合いだね」

ある日お兄ちゃんが言いました。ついに私とお兄ちゃんが本当に結ばれる日が来ました。その日は奇しくもお義母さんの出産予定日でした。陣痛が始まってお義母さんとお父さんは産婦人科の病院へ向かいました。私とお兄ちゃんはお留守番です。お父さん達を乗せたタクシーを見送った後二人で一緒に風呂に入りました。お互いの身体を洗いこしたりしました。お風呂から上がると二人ともなにも身につけないで居間に行きました。

私はさすがに緊張していました。お兄ちゃんもそれを察して私の身体にそっと触れるとやさしくキスしてきました。唇をあわせ舌を絡めると私の胸の鼓動がお兄ちゃんに伝わる様な気がしました。キスしながらお兄ちゃんの指がわたしの女の子の大事な部分に触れてきました。指が一本私の中に入ってきました。やさしくとてもやさしくゆっくりと指が動き始めました。私の中から恥ずかしいおつゆが溢れはじめ、ピチャピチャ、くちゅくちゅと湿った音を奏ではじめました。いつのまにか私の中に割って入っているお兄ちゃんの指は三本になっていました。いつも以上に敏感な私の身体は自分の中に入っている指の数さえ確実に把握できる位でした。

「それじゃジュリちゃん、オチンチンを挿れるよ。いいかい？」

お兄ちゃんがやさしく訊ねました。私は黙ってこくと頷きました。いよいよお兄ちゃんと結ばれるときが来たのです。

「多分、すごく痛いと思うけどガマンしないでいいからね。痛かったら正直に言うんだよ」

私は目を閉じたまま再び頷きました。お兄ちゃんはオチンチンの先を私の大事なところにあてました。そしてゆっくりとオチンチンを私の小さな穴の中へ挿入しはじめました。ゆっくりゆっくりとオチンチンが私の中に入ってきました。お兄ちゃんの言うとおおり、ものすごく痛かったけれど私はガマンしました。めりめりと音がするんじゃないか？というくらいで、まさに異物をねじ込まれている様な感じでした。痛みをこらえて奥歯をぐいぐいと食いしばりました。涙さえこぼれてしまいました。しかし痛いのに不意に快感が訪れる不思議な感覚は初めての体験でした。くいしばった奥歯のスキマから甘い声が漏れてしまします。

「ジュリちゃん、本当に大丈夫？」

お兄ちゃんが心配して声をかけてきました。

「大丈夫だから、絶対に絶対にやめなさいで……ほんとに大丈夫だから……」

今度はお兄ちゃんが黙って頷きました。どれくらいの時間が経ったのでしょうか？私はようやく身体を裂かれるような痛みになれてきました。いえ正確に言うとそのほど痛みを感じなくなってきました。今まで丁寧に時間をかけてお兄ちゃんが私の身体を開発してきたから、それほど無理なく結合できたのでしょうか。

「入ったよジュリちゃん、わかるかい？」

お兄ちゃんが甘い声で言いました。私は全神経をお兄ちゃんと繋がっている部分に集中させました。指よりもはるかに太いお兄ちゃんのオチンチンが私の中に埋没しているのが感覚としてわかりました。お兄ちゃんのオチンチンは私の中でくんとくんと脈打っています。

「お兄ちゃんのおチンチンが私の中に入ってるね。嬉しいよお」

痛みとは別の理由でまた涙がこぼれました。多分女の子なら誰でも最愛の人と結ばれた瞬間に涙を流すものだと思えば大人びたことを思いました。この上なく幸せでした。

「それじゃ動かすよ」

そういうとお兄ちゃんの腰がゆっくりと動き始めました。ズンと私の身体が一番奥になにかが当たる衝撃が走りまわりました。同時に頭の中が痺れる様な快感が閃きました。これも今まで感じた快感とは全然違う快感でした。少しずつお兄ちゃんのピストン運動が早くなりました。お兄ちゃんの呼吸が荒くなってきました。股間から漏れる湿った音も次第に大きくなりました。知らず知らずのうちに私は大きな声で喘ぎはじめました。お兄ちゃんの動きにあわせて腰を動かしていました。きっとお兄ちゃんは私のことをはしたくない女の子だと思ったことでしょう。

「ジュリちゃん、出るよ」

お兄ちゃんが大きな声で言いました。腰の動きも最高にスピードアップしていました。そしてお兄ちゃんのオチンチンが射精の律動をしました。勢い良くほとばしる精液が私の体の中で弾ける様子がリアルに体感できました。無数の流星が私の体の中に当たっているのがわかりました。そしてあまりの気持ちよさに私は気を失ってしまいました。

鳴り響く電話のベルの音で私は目が覚めました。私はあぐらをかいて座っているお兄ちゃんに抱っこされていました。お兄ちゃんのおチンチンはまだ私の身体に入ったままでした。後ろから伸びたお兄ちゃんの手が私の胸の乳首をいじっていました。

「ジュリちゃん、電話に出てごらん、きつと親方からだよ」

私はお兄ちゃんと繋がったままテーブルの上の受話器を取りました。お兄ちゃんの言うとおおり、病院のお父さんからでした。

「ジュリか？今生まれたよ男の子だ。ジュリの弟だよ」

ずいぶん興奮した様子でお父さんは一気にくし立てました。

「おめでと、よかつたねお父さん ああんっ」

私が言い終わるか終わらないかという時にお兄ちゃんが私の恥ずかしいおマメをくりつと摘んだのです。思わず恥ずかしい声をあげてしまいました。お父さんに怪しまれないか心配で心臓がドキドキしました。

「どうした？なにかあったのか」
お父さんが聞き返してきました。

「あ、あのね……」

私は焦ってしまいうまく答えることが出来ません。このままでは間違いなく怪しまれてしまいます。そうしている間もお兄ちゃんの指は私の身体の感じやすいところばかりを責め立てています。意地悪なお兄ちゃんの悪戯に感じてはいけなと思うとかえって感じてしまいます。喘ぎ声さえ漏らしてしまいです。パニック寸前でお兄ちゃんが受話器を私から取りあげて電話を変えました。

「親方、おめでとございます。実は今ジュリちゃんはお風呂上がりでアイスを食べていたんですよ。でも電話中にビックリしてアイスを落としてしまって大きな声をあげてしまったんです」

「なんだそうか……」

電話口からお父さんの笑い声が聞こえてきました。お兄ちゃんはお父さんと一言、三言会話を交わすと電話を切りました。その間もお兄ちゃんの手は私を責め立てていて、私は喘ぎ声をこらえるのに必死でした。お父さんが病院から戻ってくるギリギリの時間まで私とお兄ちゃんは愛し合いました。

二回目の射精の快感に私はまた気を失ってしまいました。気がつくとは私は自分の部屋で自分のお布団の中でちゃんとパジャマを着て横になっていました。居間の方からお父さんとお兄ちゃんが話している声が聞こえました。きつと祝杯をあげているのでしょうか。私はクタクタに疲れていたので再び眠りに落ちました。

最終章

しかし私とお兄ちゃんの蜜月はそれほど長くは続きませんでした。なぜならお兄ちゃんの実家のお父さんが亡くなり、お兄ちゃんは田舎に帰ることになったからです。別れを惜しむかのように私とお兄ちゃんは最後の晩まで毎日毎日、何度もお互いの身体を貪るように求めあいました。それが別れを一層辛くすることに気づいていながらも、どうしてもその行為をやめることはできませんでした。そしてお兄ちゃんは我が家を去っていきました。

私は日に日にお兄ちゃんのニオイが薄れていくお兄ちゃんの部屋で、かつてこの部屋の中で繰り広げられた行為を反芻して毎日のようにオナニーに耽りました。

一年ほど経ったある日、一枚のハガキがうちに届きました。差出人はお兄ちゃんからでした。田舎でお見合いをして結婚することになったと簡単に書かれていました。

ああ、お兄ちゃんは私のことを忘れてしまったのだ、と私は思いました。人はどんなに辛いことでも時が経てばそれを忘れてしまおうという事を私はお兄ちゃんから教えられていたのですから。

でも私は一日たりとしてお兄ちゃんのことを忘れたことはありませんでした。

お兄ちゃんを忘れられない私はしだいにその憂さをいけない行為で晴らすようになりました。

お店のキュウリやサラミソーセイジなどを持ち出してはそれらの食材でオナニーをし、その食材をこつそりとお店に戻しておくのです。お店の手伝いをしながらその食材の行方を確認するときは何とも言えない興奮と快感で背筋がぞくぞくとしました。

もろキュウを口に運ぶ町内会長さん、あぶり焼きにしたサラミスライスで焼酎を楽しむサラリーマン。

ねえ知ってる？そのキュウりさっきまで私のオマンコに入っていたんだよ？

そのサラミ、私の恥ずかしいおつゆが染み込んでるんだよ、味が違うのわかる？

ねえ私、スカートの中はパンツはいてないんだよ。オマンコ濡れ濡れになってるんだよ。誰か気がついてるひといる？

私の名前は加藤ジュリ。有線放送の演歌が流れる小料理屋の店内で今日もいけない遊びに身体を疼かせています。

完



コメントページ



↑埋め草(;-_-)



能登雅光

ズアズアツ
こな!!
ウリヤッ!

軌ちっばなしの
淫らな
暴れん坊チンコを
私のおマンコに
一晚じゅう
突き込みなっ!

さあっ!
そんな訳で

くわ!

まーしいはここ数回の
ヒクツな純平が
カワイクたまらんよ。

よよし
よし

着ぶくれだなんてあんまりだー!!



何で
おしだけ
ぐすん

まずは山下センセ、ゴメンなさい...も 今回大幅にツメ切り過ぎちゃいました。今度から体調管理、気をつけます。(泣)いや、ホントに死ぬかと思いました。おかげでこの後書き、7Dンティアの5話(!) 見ながら書いてるんですが... 何となく想像してたとは言え、Xチャクチャツヨクでした。純平!! あのツメぎは綿入れないっ! スピリットエポリューションの叫び声と共にみるみるしぼんでいく純平にはもう言葉も出ませんでした。尚に合えばマンガの参考にと書いてたんですが、どちらにしてもあれじゃあねえ...も とゆーわけで今回のマンガが僕にとっての「正しい」スピリットエポリューションってこと♡

marshy@mx6.nisiq.net



7Dンティアは
どうなるん
でしょうね。

ミーサモン
特殊能力:
敵の光線を
幾倍にも倍加
して撃ち返す
プリズムアイが
武器。

暗い夜の
しほりが消える

POP
OFF
2002.04.29



ども！雷覇 ZRX です。デジタル魂ではお初です
 デジモンもフロンティアになつておかり聖闘士○矢化
 しますが雷田気は初代が好くて悪くないですね。
 今日はテマズから ジュリさんです。やっぱり敵手
 はいーですね。ではまたどこか!! HK.5.吉日.

<http://www3.cnet-ta.ne.jp/r/raijigen/>
<mailto:raipa@po.cnet-ta.ne.jp>



おみませw ~ ビリでしようか...
 ホテルで描いたのが画材が... 支那...
 次があったら泉タンの漫画 描きたい
 です。イラスト1枚でおみませw

フロンティア 楽しんでますが: オモテカが売れ
 のかどうか心配します。(私は買いますが...笑)
 子供の人形に アーマー 装着... みたいたオモテカだと
 ↑ 全裸 へ? ラしいな

星達云々 <http://hoshiai.com>



うりくしから『トウハート』のPS版が返って
 きました。返ってきたのはいいのですが
 中の取説が無い!
 おのちーちゃん
 返さなかーい!

ほけ
 3-
 2002



ワールドカップ



なんてもくなくおしまえ〜悪の末。

● おろくなったおげくは一枚しか描けず...
しかもエロ無しなんて
もーしわけごせいません
しかもコメントカットも
こんな... (汗笑
GW進行ごとまで
この情けなさは本当に。
もっかン!! 一歩。
本当は... フロントのキャ
描いてみたかったんですけど...
次、もしよければぜひに!!
ではでは〜 忠臣蔵之介。

あと
一歩で...

◎ マーシーさん、うりさん

今回はホント御面倒をおかけしました。〇〇

次のデジ魂に誘いがあつた時は三キたん凌辱マンガを描きます!...いや、描かせてください!! (爆)

広川浩一郎



妹尾さん
友い、ス...〇〇

逃げるな・・・戦えッ!!!

ゲストの皆様、本当にご苦労さまでした!!!
MERCYRABBIT 2002

毎度キャプテンゴメスです。

反響があるのかないのが全然わからない拙者の小説ですが
今回で4回目となりました。今まで一番難産でした。

今回の小説はタイトルを見ればわかるとおり、北原ミレイさんの
『懺悔の値打ちもない』をモチーフにしています。

あとは濱田理恵さんの『地上の恋人達』とかZABADAK
の『二月の丘』なんかも混ぜてますが、多分読者の人からすれば
「そんな事言われてもなあ…」って感じなんでしょうな(笑)。
まあそんな感じのキャプテンゴメスでした。

ども、山下うりです。今回はいろいろやろうと思ってたのにやはりなんにもできませんでした。
フィギュアの写真も載せるつもりだったのに・・・実はレナモン&ルキのデフォルメフィギュア作りまして、
一回だけワンフェスで販売しました。
今度のワンフェスでも出しますのでよろしく。あと「ビートンのうららちゃん、てやんでえのプルルン
(これはC3) など新作予定です。
「ターボ基地」をチェキ(別名の場合もあるので根気よく探してください。WFとWHF,C3などに出てます)
<http://www16.xdsl.ne.jp/woory/> ←ホームページ ターボ基地もここから飛べます



主要キャラの
今後予想
by 川

ども、山下うりです。04です。タイトルにフロンティアと入れてはみたものの、さすがに五話しか放送してない状態でどうかと思いましたが、以外と風呂ネタ多くおどろきです。

今回も厳しかったです・・・今回は、ライターの方々の原稿がなかなか集まらず、最後までビクビクしてましたねー。代割り表ができたのも入稿数時間前だし(;´▽`´)。P数的にも、最初のデジ魂からずっと右上がりが増えてきたけど、とうとう下がりそうになったんですが最後の最後で皆さんがまくってくれたのでなんとか減らさずにすみました。感謝です。

フロンティアはオモチャが遅れてますね。今回は装着変身ということですけど、やっぱりハダカフィギュアつくんでしょうか？ていむぼはついてるんでしょうか？アグニモン、チャックモンはデザインが気に入ってるので楽しみです。フェアリモンはイマイチかなあ。下着っぽい服のフリにやらしさが足りないかな。リリモンと違ってすごいエロを感じたんですけど。

裏表紙にもちょっと出てますけど、海外版のデジモンはムチャクチャでいいですね。テリア系も、日本版だとガルゴ→ラピッドの超進化しか出てないけど、アメリカではテリア→ガルゴ、ガルゴ→ラピッド（日本のと全然違う）、ラピッド→セントガルゴと変形するトイが出てまして、それがメインデジモンでいたい出てるもんだからスゴイ。でも、変形が日本版にも増してムチャ。テリア→ガルゴ（表4写真参照）のやつは、テリア・ガルゴのほかに基地に変形してテリアモンの体内で付属のちっちゃいジェンやセントガルゴモンで遊べます。シユールです。巨大なテリアモンの内蔵で、人間大のセンガルが遊ぶ・・・

最近スカパーに加入しました。地上波がちっとも面白くないし、仕事でずっとテレビつけっぱなしのワタシにはいいですね。デジモンは今やってないけど、無印やんないかな。てかDVDとっとと出しなさい。でも高いんだらうな～・・・香港版を待つか(笑)

次回デジ魂05は'02冬コミ予定です。一応「デジ魂04 SUCANNERS (仮)」の予定。もちろんメインは風呂になると思いますが、ワタシは原点回帰で無印マンガでも描こうかな。あと。今回はモンのほうをあんまし描かなかったのでいっぱい描きたいですね。

ではまたよろしく～

山下うり



INFINITY- FORCE



ジエ

モガルゴ

進化